

③ 歯の外傷

ポイント

- きず口の消毒と圧迫止血をする
- 抜けた永久歯は牛乳に浸してすぐに歯科へ！

- ①歯の外傷は1～2歳児では転倒（転ぶ）によって起こることが多く、3歳児からは衝突（ビンやおもちゃをくわえたまま転ぶ、友達の頭にぶつかった、ブランコや滑り台での事故）によって起こることが多くなります。口の中のけがは出血しやすい上に、唾液が混じるため出血量を実際より多いと感じる傾向があります。
- ②外傷の部位としては上の前歯が多く、乳幼児では脱臼（グラグラする、位置がずれる、完全に抜ける）が多く、8歳からは破折（折れる、欠ける）が多くなります。
- ③歯の外傷は外力が弱くても数ヵ月後に変色してきたり、乳歯の場合は処置をしないと永久歯の発育に影響が出る場合もあるので、できるだけ早めに歯科を受診した方がよいでしょう。

現場での応急手当

- ①きずの手当をする時には必ず手を洗います。
- ②皮膚のきず口は0.05～0.1%ヒビテン（商品名）で消毒します。
口の中のきずはオキシドール（商品名：オキシフルなど）で消毒するか、ポピドンヨード（商品名：イソジンガークルなど）でうがいをさせます。
- ③皮膚や口の中から出血があれば、きず口の上を滅菌ガーゼで直接強く押さえて圧迫止血をします。ただし、口の中の圧迫止血が難しい場合は滅菌ガーゼをかませて止血してください。
- ④口やあごを冷やしすぎると口が開きにくくなるため、冷やさずに歯科に連れていきましょう。



永久歯が完全に抜けた場合の処置

- ①抜けた歯の保存状態がよく、すぐに処置をすれば、歯を元の状態に戻すこと（再植）ができます。特に、受傷後30分～1時間以内では再植の成功率が高いとされています。
- ②抜けた歯は牛乳、唾液、生理食塩水などに入れて保存します。
抜けた歯を水やアルコールで洗ってはいけません。
- ③抜けた歯をティッシュやラップでくるむと歯が乾燥して再植できなくなります。歯は牛乳の中に入れて歯科へもって行きましょう。牛乳がなければ、子どもの舌の下に抜けた歯を入れて受診するようにしてください。
- ④乳歯の場合は抜けても再植はしませんが、誤飲や誤嚥を避けるために抜けた歯は必ず取り出すようにし、歯科では歯肉の状態を確認してもらってください。

